

わたしは記録係

講演会をコミック化して

東京や神奈川で開かれた講演会をコミック(漫画)化してブログで発信している「たれんにん」こと渡邊朋子さん。新しいことに挑戦しているたれんにんさんに話を聞きました。



渡邊さん

「コミックなら読んでくれる」

たれんにんさんが講演会を聞いた話のコミックを描き始めたのは2024年。職場の仲間が立ち上げた学習サークル「こどものみらい」に参加し、サークルが主催する講演会のチラシ作成と記録を担当したことがきっかけでした。

「原発問題を取材するジャーナリストの青木美希さんの講演を聞いて、これはすごいと思ったんです。長い間とりくんでこられたことを、2時間ほどにぎゅっとまとめて

最初は手描きでしたが、今はタブレットのアプリで描いています。最初は「やったー!」と嬉しく表せるので、

生の言葉で伝えてくれる。それを聞けるのはぜひいたく時間でした。政治的なことも含めて、知らないことがいっぱいある。『なぜ日本は原発を止められないのか?』となるのがすごくうれしかった」

教員免許を持ち、小学校の個別支援学級で、子どもたちのためにイラストを入れた教材作りが得意だったというたれんにんさん。講演の内容をコミックにすることを思いつきます。

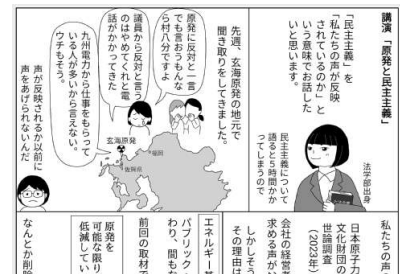
「知り合いを誘ってみると、講演会って、気にはなるけど、行くにはハードル高いと言われて。中学生や高校生はそもそも講演会を知る機会もない。でも、コミックにしたなら読んでくれる人がいるかなと思ったんです」

「うまく表せるよ」

「やったー!」



『核のない平和な世界をみんなで作る』和田征子さんの講演



『なぜ日本は原発を止められないのか?』青木美希さんの講演。描きかけとなった青木さんの講演はくりかえしコミック化している

も調べます。そうやって語りを図やイラストでうまく表せるよ「やったー!」と思う」

描いたものは、まず講演者に見てもらいます。そこで直しが入ることも。日本被団協の和田征子さんの講演では、征子さんのお母さんの体験を描き表しました。「金比羅山からの山道を、傷を負った人たちが歩いてる姿を、私は2人、3人と描きました。そしたら征子さんから『母はアリの行列を見たと言った』と。最初の絵では行列に見えなかったんですね。それで、描き直しました」

コミックを見せると、地図やグラフも含め、大変な情報量。講演者の顔やイラストが入ることで、立体的に意図が伝わります。

知る機会になれば

今までコミック化した講演は13作品。日本の戦争加害の話、元イスラエル兵から聞く平和、震災被災者の語り、横浜大空襲、講演をたくさん聞くにつれて、共通したものがあふれることに気付いたと言います。「国の一部の人たちが全部決めて。原爆も、日米地位協定も、軍事費も、あ、これもそうだったんだみたいな。あまりに相手が強大すぎると思ってしまう。でも、やっぱり知ることには大事だなって。旅先で出会った人にブログの存

在を伝えたいところ、高校生の甥に読ませたい」と返してくれました。11月に開く新婦人の「平和の旅の報告会」や、神奈川県内の憲法教室もコミック化する予定です。

「たれんにん (Talen nin)」とはフィンランド語で「記録係」の意味だそう。「その人の話したことを、思いも合せて分かりやすく伝えたい。知る機会がなかった人の目に留まればいいなと思っています」

ブログはこちら



https://otocha.hatena.blog.com/

憲法25条〈生存権〉を心に



琉球政府立法院跡の碑(那覇市)

琉球政府立法院跡の碑(那覇市)は、「鍋を開けて見なさい」と所長さんから教わりました。肢体不自由児の父親が離島から出てきて、子どもが入所できる施設がないので仕事もできないと窮状を訴えに来ました。戦争の後遺症かと思われる精神病に悩む家庭もたくさんあります。精神科の病院も少なく入所させるために知恵を絞ったものです。「家ではなく、道で暴れさせて警察に保護してもらいましょ」と福祉事務所に言われたと、患者の家族から私の名前が出て、警察に厳しくお叱りを受けたこともありました。

母の歴史

聞き書き 沖縄県 外間久子さんのお話

(6)

3067

福祉学校に通うため東京にいた頃、「人間裁判」と言われた「朝日裁判」が行われていました。1957年、国立岡山療養所で結核の加療中だった朝日茂さんが、生存権の保障を求めて起こした裁判です。憲法25条の「健康で文化的な生活」は国民の権利であるとして学びができました。卒業後1960年6月から琉球政府に就職し、児童福祉事務所に配属されました。22歳の時です。現在の県庁前のショッピングモール「パレット久茂地」が事務所でした。米軍政府下では福祉政策は貧しく、県民の暮らしは大変でした。家庭訪問をした時は、

ジェンダー平等と平和へ、時代を切りひらいた平塚らいてうからのバトンを受け継ぐ



「平塚らいてう・女性運動資料室」(東京都文京区・新婦人中央本部1階) 開館: 第2・第4火曜日 14:00~16:00 申込み: 1週間前までに FAX 03(3814)9441かメール njwa@shinfujin.gr.jpで氏名、人数、所属、電話を明記

「らいてうの家」

(長野県上田市真田町) 開館: 4/26~10/27 の土日 10:30~16:00 団体は予約を/NPO 法人平塚らいてうの会 FAX 03(3818)8626 メール raichou@nifty.com

オンライン企画のご案内

災害対策全国交流集会 2025 ~能登半島地震から678日~ 被災地で語り合う教訓と課題 日時: 11月9日(日) 10時~12時15分 講演: 黒梅 明さん(能登半島地震被災者共同支援センター事務局長) ←資料: 直前にダウンロードを URL: https://x.gd/ofzKA Zoom ID: 876 6949 2601 パスコード: 391717 URL: https://x.gd/Ov81r 主催: 全国災対連

原発ゼロをめざす運動 全国交流集会 「考えよう原発に依存しない私たちの暮らし(仮)」 日時: 11月8日(土) 13時半~16時半 講演: 松久保 肇さん (原子力資料情報室事務局長) ●活動交流 Zoom ID: 819 2256 1886 パスコード: nonukes URL: https://x.gd/br5Cq 主催: 原発をなくす全国連絡会